



**合川公民館短期講座**  
 関 合川公民館 ☎78・2114

■ポーセラーツ講座  
 真つ白な器に切り貼りした転写紙を焼付け、自分だけの食器を作ります。  
 日時 3月16日(金) 13時～  
 会場 合川公民館 定員 先着15人  
 講師 創作厨房智 松岡智子さん  
 参加費 1200円(材料代)  
 申込締切 3月8日(木)

■ペーパークラフト講座  
 日時 3月15日(木) 13時30分～  
 会場 合川公民館 定員 先着15人  
 講師 堀井 美麻祇さん  
 参加費 1500円(材料代)  
 申込締切 3月8日(木)

■コーヒー講座  
 日時 3月23日(金) 13時30分～  
 会場 合川公民館 定員 先着20人  
 講師 三浦 功輝さん  
 参加費 1620円  
 申込締切 3月14日(水)

**合川公民館「第159回ろばた講座」**  
 関 合川公民館 ☎78・2114

■希人 土濃塚イマの功績から学ぶ  
 ～類希なる偉大な婦人指導者～  
 日時 3月20日(火) 13時30分～  
 会場 合川公民館/入場無料  
 講師 金田 京子さん



**ふるさとの文化財**  
 「縄文時代編」—— 24  
 ○岩版(向様田A遺跡)  
 今回は縄文人の精神活動に係る道具のひとつ、岩版を紹介します。岩版は、大きさ(長さ)が20センチメートルを超えない程度の扁平な板状、楕円形で、多くは凝灰岩など軟らかい石を削り磨いて扁平に形を整え、渦巻や曲線、円形状の文様を彫り込んだものです。写真は長さ6・2センチメートル、幅5・5センチメートル、厚さ1センチメートルの大きさで、上縁がやや狭く、両側縁が外側に湾曲した扁平な形をしています。表面には細長いアルファベットの「C」字状の刻線を組み合わせ合わせた入組曲線を上側にひとつ、下側に左右対称に二つ配置し、曲線間の空いた隙間に三角形の三叉文を彫り込んで、左右対称な模様を描いています。この刻線を見ると、人体を表現したと思われる、前回紹介のX字形土偶のように見えます。

裏面は上側に表面と同じ様にC字状の入組曲線をひとつ配置し、下側には横倒しの「S」字状の刻線二本を組み合わせた入組曲線、渦巻、同心円を彫り込んでいます。曲線間の空間は表面と同様です。表面と違い、左右対称の構図にはなっていない。「対称」と「非対称」の図柄に意味が込められているのかもしれませんが、また側縁にはノコギリの刃のような鋸歯文が刻まれています。左側だけは空間部分に三角形の三叉文が付けられています。なお刻線の部分には赤彩された痕跡が残っており、全体もしくは刻線部分のみ赤く塗られていた可能性があります。これは縄文時代晩期の今から約3000年前頃のものと思われる。岩版は土偶等と変らない表現、故意に破壊されているものもあることから、変らぬ意味が込められていたと思われる。現代のお守りのように小袋などに入れ護符として携帯したのかもしれない。▽紹介者/北秋田市教育委員会生涯学習課文化係



# 学びの広場

- 公民館活動
- 生涯学習
- 文化振興
- 学校
- スポーツ

## 「期間限定」の子育てを笑顔で楽しもう ～安藤パパの絵本ライブ&講演会～

父親の育児支援などに取り組む、NPO法人ファザーリングジャパン代表の安藤哲也さんによる「絵本ライブ&講演会」が1月20日に市民ふれあいプラザで行われました。このイベントは、子育て中の親の学びや育ちを応援するため今年度新たに立ち上げた「北秋田市家庭教育支援チーム」が初めて主催したものです。絵本ライブでは、3児のパパでもある安藤さんが13冊の読み聞かせを行いました。ギターとの弾き語りと一緒に「三びきのやぎのがらがらどん」が

始まると、会場の皆さんは手拍子をしながら楽しそうに聞き入っていました。



▲親子で楽しんだ絵本ライブ

## 郷土の偉人「畠山義郎」を知る ～合川公民館「ろばた講座」～

合川公民館公開講座「第157回合川ろばた講座」が1月23日に合川公民館で行われ、約50人が参加しました。この講座は、昨年行った「郷土の偉人 畠山義郎を語り継ぐ」の第2弾として、講師に安部綱江さん、関源一さんを迎え、開催したものです。講座では、畠山氏の秘蔵写真をもとに、氏の旧合川町長としての10期40年を振り返り、県や国より先駆けて行った施策やその手法などについて語られました。また、参加者からは、氏の人柄を感じるエ

ピソードや思い出話が紹介され、心温まる講座となりました。



▲参加者が涙を流す一幕もあった「ろばた講座」

## 心と心をつなぐもの ～“Gちゃん”サミットin北秋田市パート6～

Gちゃんサミットパート6～架け橋編が、2月10日に市民ふれあいプラザで行われ、多くの参加者が地域・観光資源を活用した交流や仲間作りについて考え理解を深めました。基調講演では、秋田内陸縦貫鉄道代表取締役社長の吉田裕幸氏が『秋田内陸線と沿線地域の未来を創る!』と題し、「鷹巣・角館間の94.2キロにある文化や森吉山などの自然資源を活かし、内陸線の利用促進につなげたい」と沿線の可能性について語りました。また、ふれあいトークでは、能代河川国道事

務所の坂憲浩所長をコメンテーターに地域の活性化について活発な意見が交わされました。



▲国立市での活動を紹介する川島操さん(中央)